

この度は、「令和7年(2025年)『地域懇談会』アンケート」の集計結果について、ご提示いただいた資料に基づき、以下のとおり要点をまとめます。

## 1. 満足度に関する評価（設問1）

設問項目	大変良かった	良かった	普通	あまり良くなかった	総回答数
① 今回のグループ討議でのご感想	19件	14件	1件	0件	34件
② 今回の地域懇談会の運営など全般のご感想	17件	16件	1件	0件	34件

## 2. 理由・ご意見（設問1の理由、その他）

「大変良かった」「良かった」と評価した理由や、付随する意見として、以下の点が挙げられています。

### A. 多様な意見聴取と交流の機会

- ・ 町会や自治会、その他の団体など、様々な立場の意見を聞くことができ、参考になったという意見が多く見られました。
- ・ 地域交流にかかわる課題や工夫、他の団体の取り組みなどを知ることができた点も評価されています。
- ・ 特に町会や自治会だけでなく、広く各種団体の意見が聞けたことを評価する声もあります。

### B. 議論の質と深まり

- ・ グループ討議を通じて、地域の課題や問題意識を深く掘り下げ、現状を明確に把握できたという意見があります。
- ・ 日頃お世話になっている地域の消防学校や区民センターの職員の皆様と、和気あいあいと楽しく話せる場を設けてもらい有意義だったと感じた回答もあります。
- ・ 課題が浮き彫りになり、話の持っていき方によっては解決策にまで手が届くと感じたという期待感を示す声もありました。
- ・ 様々な立場の方との討議が、今後の取り組みのヒントになったという感想も寄せられています。
- ・ 有意義な討議時間であり、話すことで自分の生活や環境に関わる人の活動を間近に感じ、自分と繋がっている実感を持ち、大変良かったという意見もありました。

### C. 運営・その他

- ・ スムーズな進め方で意見交換ができたという感想がありました。
- ・ 様々な立場の意見をまとめていただき、進行や司会など多様な関係者のご尽力に感謝する声が複数あります。
- ・ 知らなかったアイデアや考えを知ることができ、とても良かったという学びの側面を評価する声もありました。
- ・ テーマを事前に知らされず、その場での対応が難しかったという反省や、グループ討

議のテーマを事前に知らせて、もう少し深く掘り下げた内容の話が出来たら良かった、という意見も一部に見られました。

### 3. 協議会事業全般についての要望（設問2）

今後の協議会の事業全般について、以下のような要望や取り上げて欲しいことが挙げられています。

- **課題解決への手立ての具体化**：協議会事業全般について、どう取り組んでいくのか、今後の取り組みの方向性や解決策への手立てについて確認したいという要望がありました。
- **若年層・次世代への関与**：若い世代が中心に喜べるイベントができると良いという要望や、**2050 東京戦略**をテーマに皆さんが話しやすい一つのネタとして取り上げてほしいという提案がありました。
- **地域への広報と定着**：今回の意見交換や議論で深めた課題を、**広く地域に広めて定着**させてほしいという要望があります。
- **多世代連携と地域課題の掘り下げ**：地域に関わる資料を基にした討議をさらに深く経験したい、また、**世代間交流を通じて地域を担う人財**を育成したいという要望があります。
- **継続的な機会の提供**：様々な立場の方とお話できる機会を、ぜひ今後も作ってほしいという要望があります。
- **困りごとへのサポート**：今回の意見を把握し、困りごとを抱えた人をサポートする場を次回の協議会で考えて欲しいという提案がありました。
- 協議会事業全般について、特に要望はないとする回答もありました。
- 

### 4. その他（設問3）

- 懇談会そのものがとてもためになった、**有意義な機会**だったという感謝の言葉が寄せられています。
- 資料・図書物の**デジタル化を推進**してほしいという要望がありました。
- 地域担当課の頑張りが参考になったという意見がありました。
- 運営について、会議の進め方が大変参考になったという意見もありました。

---

このアンケート結果は、**地域懇談会が多様な団体間の意見交換と課題共有の貴重な場として機能している**ことを示しています。今後の協議会の活動では、**若年層の参加促進**や、議論を通じて明確になった**地域課題の具体的な解決策**に焦点を当てることが、参加者から強く期待されています。

この懇談会は、まるで多くの団体が持ち寄った**地域の知恵と経験というパズルのピース**を、皆で協力して組み立て、**地域の課題という大きな絵**を明確にする作業であったと言えます。今後は、この絵を完成させるための具体的な「行動の設計図」を作成し、次世代へと引き継いでいくことが期待されています。